

文章構成の在り方を実感できる学習指導の工夫

～6年「平和のとりでを築く」と短作文指導の実践から～

五泉市立五泉小学校 長谷川 水緒

1 研究テーマ設定の意図

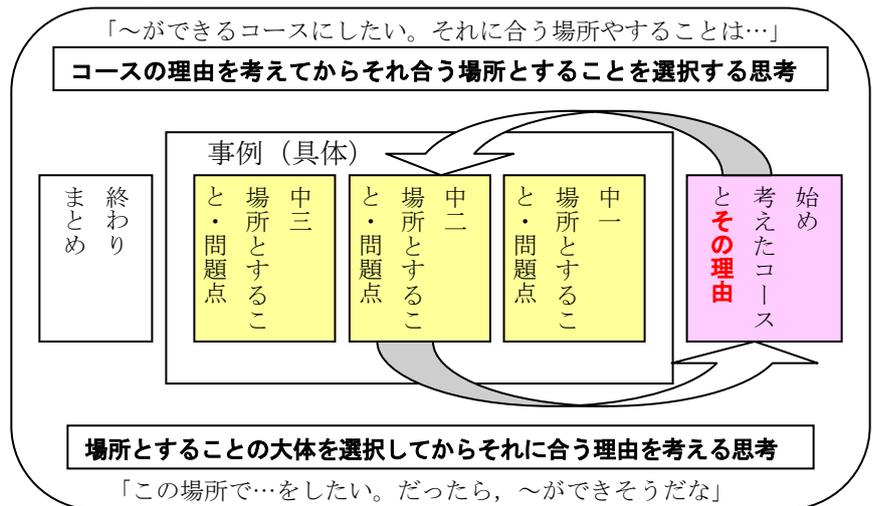
24年度、学習指導改善調査国語Bの本校における結果では、「段落を構成する力」と「目的を明確にして記述する力」の項目の正答率が低かった。具体的にいうと、自分の考えを大きく三つに構成し、「始めの段落では『考えたコースと**その理由**』を記述する」という条件に沿って書くことに誤答、無答が多く見られた。

自分が考えたコースの理由を書くということは、「コースの理由を考えてから、それに合う場所とすることを**選択する思考**」と「場所とすることを**選択**してから、それに合う理由を考える**思考**」のどちらかが必要である。

つまり、始めの段落と中の段落を行き来し、理由と事例（具体）との整合性や妥当性を考えながら、自分の考えを構成しなければならない。

本校の児童は、事例（具体）に合わない理由になっていたり、理由となる部分が中の段落に入り込んでいたりする誤答が見られた。思いつきで文章を書くのではなく、自分の考えを構成してから記述する力、加えて、構成した内容同士のつながりを考える力、つまり文章構成力が必要であることが分かった。

学習指導要領解説編においても、「目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考へて文章に書く能力を身に付けさせる」とある。目的や意図に応じて、内容同士のつながりを考え、自分の考えを構成する力の育成が不可欠であると考え、本研究テーマを設定し実践することとした。



2 授業改善の視点

作文を書くことだけを繰り返し行っても、目的や意図に応じて自分の考えを構成する力は育たない。児童が、「こうやって構成すると相手に分かりやすく伝わる」「このように構成すれば自分の考えが明確になる」という実感をもてる授業を行うことが大切であると考え、そこで、次の二つの取組を行うこととする。

- (1) 説明的な文章を読む学習をとおして、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、筆者の伝えたいことをとらえる授業展開をすること。
- (2) 目的や意図に応じて考えを構成する必要がある短作文を書き、内容同士のつながりはどうか、自分の考えを構成しているのかという点について、児童の自己評価と指導を繰り返して行う場を設定すること。

3 実践の概要

(1) 説明的な文章を読む学習の取組について

単元名 「平和」について自分の考えを明確に伝えよう

教材名 「平和のとりでを築く」 光村図書

この単元のゴールは、平和について自分の考えを明確に伝えることである。児童は、「平和といってもどう考えたらいいのだろう」「どのように伝えたら分かりやすく伝わるのかな」という疑問を抱いた。そこで、『平和のとりでを築く』を読んで、平和とはどのように考えればよいのか、どのように伝えれば相手に分かりやすく伝わるのかを探ろう」と、内容面と述べ方の面で教材文を読む目的をもった。

① 筆者の意図や思考を想定しながら事実や事例を考える

児童には、いくつかの段落を抜いた教材文を渡した。そして、段落にどのような内容が書いてあるのかを検討させた。意図的に抜いた段落は以下のとおりである。

- | | |
|---|------------------------------|
| ア | ②③段落…原爆が落とされる前の物産陳列館だったときの様子 |
| イ | ⑥段落 …保存反対の声 |
| ウ | ⑦段落 …一少女の日記の内容 |
| エ | ⑧段落 …補強工事のため全国から手紙や寄付が届けられる |

児童は、次のように検討していった。

<アについて>

C1 : ①段落に「社会がはげしく変わっていった時代」とあるから、社会の変化が②③段落に書いてあると思う。

C2 : 確かに。「社会がはげしく変わった」とあって、④段落にいきなり原子爆弾が投下されたことが書いてあってもどう変わったのかが分からない。

C3 : そう考えると、原子爆弾が落とされる前の様子を書いていると思うな。

C4 : そうだね。だって、大牟田さんは「はげしく変わった」と書いているから、きっと原子爆弾が落とされる前の平和な様子があるのではないかな。

この班は、始めの①段落の叙述を切り口に、空欄後の④⑤段落をかかわらせて考えている。さらに、②③段落と④⑤段落が対比しているのではないかと、筆者の叙述をもとに考えを深めていった。こうした前後の叙述や段落のつながりから、筆者の伝えたいことに迫っていった。そこで、この姿を全体に紹介し、価値付けた。

<ウについて>

C5 : ウはきっと一少女の日記だと思うな。

C6 : やっぱり。だって「一少女の日記がきっかけ」とあるけど、その日記の内容がないからね。

C7 : あと、日記がないと、その後のなんで日記に後おしされたのかがよく分からない。

C8 : 日記には、取り壊そうとする人の気持ちを動かすようなことが書いてあったのではないかな…

C9 : 自分もそう思った。大牟田さんは、そういう内容の日記を例として出して、原爆ドームの価値を伝えたいのではないかな。

この班も、叙述をきっかけに、前後の文章のつながり、内容のつながり、具体的な事例の必要性へと話が進んでいった。

全文を読ませ、内容を読み取らせることも一案であるが、筆者の伝えたいことを想定し、対比した事例の必要性を考えて検討することは難しい。気付かせたいところをあえて提示せずに考えさせることで、筆者の意図や思考を想定しながら段落同士の内容のつながりやその役割を検討することができた。

② 三つの構成とその根拠を考える

教材文について、三つの構成（始め、中、終わり）を検討させた。意見が分かれたため、「始め」がどの段落なのかに絞って検討させた。

①段落のみ、①②③段落、①②③④⑤段落という三つの分け方の意見が出た。①②③段落は、原子爆弾が投下される前の内容である。つまり、投下される前後の時間や広島市の変化で「始め」と「中」を分けた考えである。①②③④⑤段落は、原爆ドーム保存へと議論がされる前の内容である。これは、原子爆弾投下ではなく、その後の保存するのかもしれないので「始め」と「中」を分けた考えである。初めに、①②③段落と①②③④⑤段落の意見を検討させた。二つの意見は、事例のくくり方の違いだけなので、どちらでも良いのではないかと平行線の話合いになった。そこで、①段落のみだという児童の根拠を検討させた。

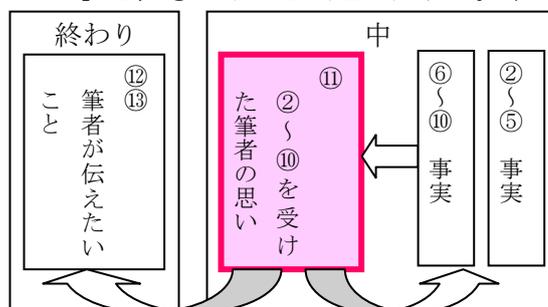
- ・②からは具体的な事実が書いてある。
- ・①段落は事実ではなく、筆者の思いが書かれている。
- ・『わたし』という言葉が①段落にあるけれど、②段落にはない。『わたし』は大牟田さんだから、①には筆者の思いが書いてある。
- ・分かった！『思わずにはいられなかった』とあって、その説明が②段落から始まっている。だから、初めて筆者の思いを伝えて、②段落から事実をとおして伝えようとしているんだよ。

書かれている内容だけではなく、述べ方に着目する意見やその意図に迫る考えが出た。そこで、構成を考える際には、内容のつながりだけではなく、「筆者の意図を想定しながら、考えと事実とのつながりを考える必要がある」ことを価値付けた。

③ 要旨にかかわる段落の必要性を問うことで、筆者の伝えたいことをとらえる

「平和のとりでを築く」は、②段落から⑩段落までが事実・事例、⑪段落がそれを受けた筆者の思い・意見となり、その後⑫⑬段落の筆者が伝えたいこと（要旨）につながっている。そこで、「筆者は自分の考えを伝えるためになぜ⑪段落を入れたのか」と、⑪段落の必要性を問うた。筆者の意図を問うことで、児童が筆者の意図や思考をたどりながら、事実・事例と思い・考えとのつながりを考え始めると考えたからである。

まず、⑪段落の必要性を問う前に、⑪段落を提示し、中⑥～⑩段落のどこに入るのかを検討させた。（児童には⑪段落を抜いた文章を配布していた）児童は、内容のつながり、時間的な順序のつながりという視点で検討していった。



- ・⑨段落の後…『改めて感じた』のは、⑨段落の市民の思いを感じたからこそ『改めて』だから⑨段落の後にきたほうがいい。」
- ・⑩段落の後…「⑩段落で世界遺産の規模などの説明をしている。それがあって『規模が小さいうえ、歴史もあさい』につながるから⑩の後にくるべきだ。」

こうした話し合いが続いたとき、児童が、次のように理由を説明した。

- ・⑩段落の後…「②～⑩段落は、事実や事例が書いてあったけれど、その後にこの事実や事例を受けた大牟田さんの思いが入ってくる」
「だから、『わたし』という言葉も出てくるんだよ」
「確かに！⑪段落の『わたし』の思いは、⑥～⑩段落の保存するかどうか、世界遺産としてふさわしいかどうかの事実や事例があってこそその思いだもんね」

内容や時間的な順序のつながりだけではなく、事実・事例と筆者の思い・考えという視点で段落同士のつながりを考えることができた。筆者の意図によって、段落同士がつながっていること、構成されていることに気が付くことができた。

その後、⑩段落の必要性を問うた。②～⑩段落の事実・事例を受けた筆者の思いであるから必要という意見のほかに、⑫⑬の終わりの段落とのつながりを考え始める児童が多くいた。

- ・「歴史のあさい原爆ドームが世界遺産に認められたのは、世界の人々の強い気持ちがあったからこそだと大牟田さんは伝えたい。それを②～⑩段落の事実や事例で説明して、それを受けて⑩段落で思いを訴えているのだと思う」(②～⑩段落と⑩段落のつながりから考えている児童)
- ・「⑫⑬段落にもつながっている。⑩段落があるからこそ、⑫段落の『世界の人々に警告する記念碑なのである』、⑬段落の『それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ』と、世界の人々へのメッセージが込められた原爆ドームの価値を訴えているのだと思う」(⑩段落と⑫⑬段落のつながりから考えている児童)

書かれている内容をなぞり、筆者が伝えたいことをとらえるのではなく、事実や事例と思いや考えという視点で構成を考えたり、段落の必要性を考えたりした。児童は、内容や時間的な順序だけで段落が構成されているのではなく、筆者が目的や意図をもち、内容同士のつながりを考えて段落を構成していることを実感することができた。

(2) 短作文を書く取組について

朝学習の時間に短作文を書き、内容同士のつながりを考えているのか、自分の考えが伝わるように構成しているのか、児童が自己評価をする場を繰り返し設定した。ここでも、目的や意図に応じて自分の考えを構成することを意識して取り組ませた。

① ステップ1 課題に対して決められた文字数と時間で書く

五泉小学校の6年生のろう下の歩き方について、あなたの考えを200字から400字で書きましょう。(10分間)

経験したことを基にして書けるよう、身近なことを題材にして書かせた。書かせた後、「字数」「段落が三つ以上か」「文末はそろっているか」「事実と考えが述べられているか」という4つの視点で自己評価させた。

「段落が三つ以上か」を評価する際は、「始め・中・終わり」で分けてあるのか、各段落で見出しをつけることができるのかを検討させた。事実や事例が変わるごとに段落を分け、まとまりを意識していない児童、始めと中の段落が分かれていない児童が見られた。見出しを付けようとする、「自分の意見と事実が一緒になっていて、見出しを付けづらい」「ここで分けると、『自分の意見』『走って通っているという事実』に分けられる」と、自分の問題点や改善策に気付くことができた。

「事実と考えが述べられているか」を評価する際は、事実の部分には青線、考えの部分には赤線を引かせた。色別の線を引くことで、「事実と考えが入り交じっていて分かりづらい」「始めと終わりに自分の考え、中に事実を述べた方が分かりやすい」と、ここでも問題点と改善策に気付くことができた。また、常に自分で線を引くのではなく、席が隣の児童同士で交換して付け合うことも行った。自分の文章を客観的に見てもらうこと、友達の記事を客観的に見ることで、内容同士のつながりを考えているのか、自分の考えが伝わるように構成しているのかに気が付くことができた。

② ステップ2 目的や意図を意識しながら書く

ステップ1を行っていくと、次のような問題点が見られた。

始めの部分と終わりの部分が単純な繰り返しになっている。

始め 「私は、6年生のろう下の歩き方は良くないと思います。」

中 「(事実・事例)」

終わり 「だから、私は6年生のろう下の歩き方は良くないと思います。」



事実・事例と考えのつながりや段落構成を考えずに、機械的に思い付いたことを書いている児童が見られた。そこで、ある児童の文章を取り上げ、「終わり」の部分だけ書かせる取組を行った。児童は、始めの書き出しと中の事実・事例をとおして、自分だったら何を伝えたいのかを考えて終わりを書いた。

始めと中の部分を踏まえて、終わりの部分で自分の伝えたいことを書いている。

始め 「私は、6年生のろう下の歩き方は良くないと思います。」

中 「(事実・事例)」

終わり 「だから、私は6年生のろう下の歩き方は良くないと思います。
こうした状況が続くと、けがをする人が出たり、授業中であるクラスの勉強のじゃまになります。自分自身が気を付けることはもちろんですが、6年生同士で声をかけ合ったり、ろう下の真ん中にコーンを置いて走りにくくしたりするなど、工夫していくことが大切だと思います。」

つながっている

終わりの部分を書くには、始めや中とのつながりを考えながら書かなければならない。終わり部分だけを書かせることで、中の部分からいえる改善案や今後のめあてを加えるようになった。終わりの段落とは、始めに書いたことを繰り返したり、良いか悪いかの判断だけを書いたりするのではなく、中の事実・事例から考える自分の意見を書くことが大切であることを価値付けていった。

③ ステップ3 条件付きの課題について考えて書く

課題に対して、条件を与えて書かせた。

Aさんは、卒業文集で、「自分が成長したこと」を書きます。中1の見出しは、「そうじのとき、班長として成長したこと」です。あなただったら、どう書きますか。次の条件を必ず入れて、300字以上400字以内で書きましょう。

<条件1> 文章中に会話を入れること

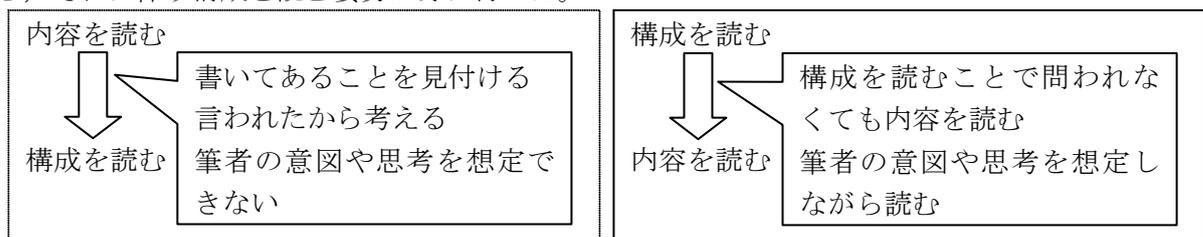
<条件2> 成長したと思う理由を入れること

文章を書いた後、事実・事例の部分は青線、理由の部分は赤線を引かせた。すると、成長したと思う理由を述べてからそれに対する具体的な事実を述べている児童、具体的な事実を述べてからそれらをまとめて理由を述べている児童の2つのパターンが見られた。「どちらが先に述べていると分かりやすいのか」「理由と具体的な事実は合っているのか」を検討させた。こうして、児童は、文章を書く際には、事実・事例と理由の行き来をしながら構成して書くことを意識するようになっていった。

4 成果と課題

<成果>

- ・一単元だけではなく、一年間をとおして授業改善の視点で授業を構成して行った。継続して取り組むことで、児童が、内容面からの読み取りだけではなく、筆者の意図や思考を想定しながら、それに伴う構成を読む姿勢が身に付いた。



- ・読むことで学習したことが、その後の書く活動に生かされた。「平和のとりでを築く」の読む学

習の後に、「平和」についての意見文を書いた。児童は、伝えたいことの大体を決め、それについての情報を集めた。そして、事実同士、事例同士のつながりを考えたり、事実や事例と主張との関連を考えたりして構成表を考えることができた。

- ・朝学習の短作文の取組では、条件を与えて書かせたり、事実と主張のつながりを考えさせたりすることで、目的や書き手の意図を考えながら情報を整理したり文章を書いたりする姿勢が身に付いてきた。

<課題>

- ・学習指導改善調査の問題を見ると、さまざまな資料を重ね合わせて読み取ること、条件に合う文章を書くことが求められていることが分かる。報告文、意見文など、目的や相手の違う文章を書く経験を積み重ね、自分の考えをもちそれを明確に伝えるための文章構成を考えることが必要である。その際、今回の短作文の取組に加え、さまざまな資料を関連させること、目的や意図に応じて構成を考えさせることを大切に指導していきたい。